

# 「学校林・遊々の森」 全国子どもサミット 報告書 ～高尾の森わくわくビレッジ～



主催:「学校林・遊々の森」全国子どもサミット実行委員会

【構成】林野庁、(社)国土緑化推進機構、(財)オイスカ

(社)全国森林レクリエーション協会、全国森林インストラクター会

協賛:松下電器産業(株)、(株)SNKプレイモア、京王電鉄(株)

日本コカ・コーラ(株)

# 目 次

(ページ番号)

1	はじめに	.....	1
2	「学校林・遊々の森」全国子どもサミットプログラム	.....	2
3	参加小学校の活動報告発表		
	①北海道幌加内町立朱鞠内小学校	.....	3
	②北海道蘭越町立三和小学校	.....	4
	③岩手県釜石市立橋野小学校	.....	6
	④秋田県湯沢市立秋ノ宮小学校	.....	8
	⑤福島県川俣町立山木屋小学校	.....	10
	⑥神奈川県相模原市立広陵小学校	.....	11
	⑦愛知県新城市立菅守小学校	.....	12
	⑧長野県富士見町立境小学校	.....	13
	⑨岐阜県可児市立旭小学校	.....	14
	⑩大阪府河南町立河内小学校	.....	16
	⑪鳥取県米子市立成美小学校	.....	18
	⑫広島県安芸高田市立小田小学校	.....	20
	⑬香川県高松市立屋島東小学校	.....	22
	⑭熊本県熊本市立託麻原小学校	.....	24
4	講演「「学校林・遊々の森」活動の現状と課題」 東京大学 永田信教授	.....	26
5	先生達の意見交換会		
	第 1 グ ル ー プ	.....	35
	第 2 グ ル ー プ	.....	40
	ま と め	.....	45
6	全国子どもサミット主催団体及び協賛団体等の紹介	.....	46
7	「学校林・遊々の森」全国子どもサミットスナップ	.....	52

## はじめに

### 【学校林とは】

- 明治時代に、森林の造成を通じ、青少年の林業教育、学校の基本財産の造成を目的に設定されました。
- 平成18年度時点で、全国の小学校、中学校、高等学校のうち3,057校において、約2万ヘクタールが設定されています。
- 学校林活動は、木材価格の低迷等による林業不振や学校カリキュラムの見直しにより停滞していました。
- 最近になって、総合的な学習の時間の導入により、環境学習の場として、学校林活動が見直されつつあります。しかしながら、全体から見ると活動は各校単独での取組にとどまり、地域的な広がりにかけているのが現状です。
- 学校林活動を多くの学校に広げ、継続的に展開していくためには、学校同士の横のネットワークと地域社会、NPOの支援が課題と考えられます。

### 【遊々の森とは】

- 総合的な学習の時間などにおいて、学校等による森林環境教育の推進に寄与することを目的として、平成15年に創設された制度です。森林での学習活動、体験活動に国有林のフィールドを提供します。
- 自然観察、昆虫採集などの森林学習のほか、社会や理科、音楽などの授業、植林・間伐などの体験林業、ネイチャーゲーム、ツリーハウスなどの森林の遊びの場として、継続的な利用が可能です。
- 平成18年度末現在、全国で127箇所が設定されています。

### 【全国子どもサミットの目的】

- 「学校林・遊々の森」全国子どもサミットは、学校林活動に取り組む学校を広げていくことを目的として、学校林活動に積極的に取り組む小学校14校が全国から集まり、子ども達の学習・体験活動の発表と先生方による意見交換を行い、これらの情報の発信を通じて、学校林や遊々の森での学習・体験活動の輪を全国に広げていこうとするものです。

「学校林・遊々の森」全国子どもサミット  
プログラム

7月30日

- 開 会 式 13:00～13:20  
司会 加藤 ((財)オイスカ 組織広報課長)
  - ① 主催者あいさつ 皆川芳嗣林野庁次長
  - ② 参加校紹介
  
- 参加小学校児童による活動報告発表 13:20～15:30
  
- 講演「学校林・遊々の森」活動の現状と課題 15:40～16:10  
講師 東京大学 永田信教授
  
- 意見交換会 16:20～18:10

子ども達は

- つみ木広場 15:40～17:10
- 森の博士 17:10～17:30

7月31日

- 高尾山自然観察会 9:15～



朱鞠内小学校は、北海道の北、旭山動物園から北へおよそ100Kmのところにあります。周りは山に囲まれています。学校の周りの国有林で「わんぱくの森」が設定されました。森林教室を年4回開催しています。今日は年4回の森林教室を季節ごとに紹介します。



「わんぱくの森」春では、まだたくさん雪が残っている中に鳥が住んでいたのか確かめました。エサのカスがあって、冬の間に鳥が来ていたようです。

台風や雪で折れかかっている木は危ないので森林管理署の人が伐ってくれました。



曲がっている木に、みんなでぶらさがりました。地面の雪のやわらかさは、およそ15cm埋まるくらいで、歩くとたびに足がめり込みました。触った感じは少し硬かったです。森を降りるときは坂が急で、雪で足が滑りました。まだ木の上には雪が残って、手で触ると雪がどさっと落ちてきました。



白樺の樹液も飲みました。白樺の木にドリルで穴を開け、ペットボトルを用意して樹液をとりました。樹液は甘くてポカリスエットに似た味がしました。身体にもいいと森林管理署の人が教えてくれました。



「わんぱくの森」夏では、森に入る前に必ず虫除けスプレーをかけます。そして防虫ネットをかぶります。暑いのですが、虫に刺されるので長袖です。山では特に虫が多いので、このような対策は必ず行います。ハチも多く飛んでいるので気をつけます。山を少しずつ登りながら森林管理署の人が木や花や山道について説明してくれました。花や木だけではなく、昆虫も見られました。セミ、クワガタ、カブトムシが山には住んでいます。時には学校の窓に来ることもありました。山の頂上からは朱鞠内のシンボルとも言える日本一の人造湖「朱鞠内湖」が少し見えました。



森林管理署の方が作ってくれたターザンロープにぶら下がる体験をしました。下が斜面になっているので普通のターザンロープよりスリルを感じました。下山するとブランコが作られていました。そこで写真を撮りました。「わんぱくの森」夏の写真を見るたびに防虫ネットを思い出します。



「わんぱくの森」秋では、ダンボール紙ねっこんを作りました。ダンボールを六角形に折った4つの周りにシュレッダーにかけた紙を入れます。そして土を入れてドングリを埋めます。水にドングリをたくさん入れて沈むものを選びます。学校の前で全員のを作りました。そして容器を持って山へ登りました。森林管理署の方が草を刈ってくれた所に3個ずつまとめて置きました。年が明けてどんな芽を出すのかとても楽しみにしていました。行ってみると全部動物に食べられてました。とても残念でした。また今年もチャレンジするので今年こそは成功することを願っています。



木の下には木の葉やドングリがたくさん落ちていました。みんなたくさん拾っていました。大きなベニテングダケというキノコが見られることもあります。森には子供や赤ちゃんのドングリの木がたくさん見られます。ドングリは落ちると自然に育つそうです。とても大きくなるには、たくさんの年月が必要となるそうです。



「わんぱくの森」冬では、雪の上を歩く時は雪が柔らかいので長靴が雪にめりこみます。冬の雪は春の雪と比べてとても柔らかいのです。膝まで埋まってしまう。カンジキを履くと長靴よりも足の面積が広いので、その分圧力が分散されて雪に埋もれにくくなります。冬の森に入る時は、足にはカンジキ、手にはストックを持ちます。ストックがないと斜面で力を加えられないのです。服装も完全に冬の服装です。

ナタという道具で木に巻きついたツルを伐る体験をしました。ナタはとても重く重量感がありました。みんなもナタを持ってツルを伐っていました。とても貴重な体験がみんなできました。

森を降りる時は、ストックを持ちカンジキを履いているので坂を滑ることができます。みんな楽しそうに滑りながら降りて行きます。冬は特に寒い中で行われますので、他の季節より体力を使います。寒い中で厚着をしていますので汗は結構かきます。冬の教室が終わってからの給食は特に暖かく感じられました。

# 北海道蘭越町立 三和小学校

発表者：岡崎暉生、木村桃子  
先生：森川信弘

私たちの学校は、北海道の南西部エゾ富士と言われている羊蹄山やニセコの近くにありま。蘭越町は米と温泉が有名な町で、清流日本一の尻別川が流れています。全校児童は10名の小さな学校ですが、みんな仲良く学校生活を送っています。



学校から学校林までの道のり

立木を利用した小屋作り

みんなで協力して、木を削り、板を打ち付けて完成！



学校林は昭和42年、今から40年前に整備されました。その時に植林されたトドマツ4000本、ヤチダモ400本は今でも立派に成長しています。学校から歩いて5分の所にあり、春はウドやタラノメなどの山菜、夏はセミやクワガタなどの昆虫、秋はキノコと四季を通じて親しんでいます。

学校林での学習を本格的に始めたのは5年前です。当時の高学年10人が、みんなが食事が出来る小屋を作りました。3年前からは尻別森づくりセンターの方が森林教室を年3回開いてくれます。森林教室ではキノコ探しや森の働きなどを丁寧に教えてくれます。去年は間伐について学びました。

学校林は植林してから手入れがされていませんでした。混み合っていて風通しも悪く、日光が地面まで届かず、下草も生えない状態でした。森づくりセンターの方のアドバイスを聞いて間伐をすることにし、間伐する木を選ぶことから始めました。傷ついた木、細い木、曲がった木などを選びました。

木を伐る体験もしました。直径20cm位の木を伐るだけで30分以上もかかります。昔の人はこんな作業をしていたんだと考えると、とてもすごいと思いました。

学校林に小屋をつくったよ！

間伐する木を選んで切る



秋にはキノコ探しをしました。森づくりセンターの方と一緒に学校林の中で色々なキノコを見つけました。ナラタケやシメジなど北海道を代表するキノコがたくさん見つかりました。

冬には間伐材を利用した木工クラブに挑戦しました。トドマツ、シラカバ、ミズナラなどの木を乾燥させてウサギやフクロウなどの動物を作りました。間伐材は捨てる所がないくらい利用する方法があることを知りました。

間伐したトドマツを炭焼きがまに運びました



トドマツの薪木  
薪木を炭焼きがまに運びます

間伐した木を地域の炭焼き名人にお願いして全校で力を合わせて原木を炭焼き作りをしました。伐ってから日がたつてないトドマツの木は水分が抜けてなくて、とても重かったですが、みんなで力を合わせて炭焼き釜まで運びました。夏休みに火入れに参加して、火の神様にお祈りをしました。炭にするまでに約1週間もかかりました。30本のトドマツの原木から80袋の炭ができました。その炭で食べた焼肉はとても美味しかったです。学校や地域の行事などでも私たちが作った炭が活躍しています。

炭焼きがまからできた炭を運び出しました。



学校林で見られるキノコ



木工クラブに挑戦しました！



火入れ式



森林教室で、遊歩道を決める作業中



笹やぶの中を進むほくと



チップ工場の見学

森林組合の協力で間伐材をチップにしました。チップ工場を見学しましたが、丸太が大きなカッターに吸い込まれて次々にチップになって出てくるところは迫力がありました。

全体で1ha位ある学校林ですが、今まで使っていたところは、道路から見える部分のみでした。奥は北海道特有のササヤブが生い茂り、とても中へ入って行けませんでした。今年はその奥に入っていくために遊歩道を作りました。ミズナラやシラカバ、イタヤカエデ、ホオノキなどの大木が樹生している学校林。私たちは遊歩道作りをとおして森が持っている様々なことを学習しました。遊歩道作りは、2mあるササヤブに分け入りしましたが、ササに足を取られて思うように進めませんでした。その遊歩道にチップを敷いて歩きやすくすることにしました。

森林教室で枝打ちの仕方を体験しました。

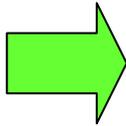


実際にやってみたら意外にできました。



学校林では枝打ちも経験しました。真っ直ぐな良い木が育つための作業だそうです。始めは慣れなくて難しかったけど、だんだん慣れてきて大きな枝もあったという間に伐る事ができました。

遊歩道にチップを巻く作業はとても大変でした。買い物カゴで運んだのですが、森の中は歩きにくくて転びそうになりました。みんな頑張って遊歩道にチップを敷き詰めました。全体で250m位ある遊歩道の100mは完成しました。



学校林は私たちが学習する場として更によりよくするように、私たちはもちろん、地域の方々にも知恵を出してもらって整備しているところです。

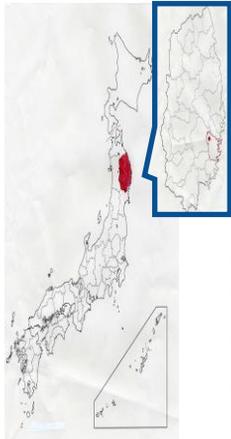
## 僕たちの学校林活動は続く・・・



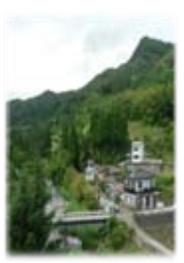


# 岩手県釜石市立 橋野小学校

発表者：和田重道、菊池のどか、小笠原怜  
先生：今西智教



私たちの学校は、東北地方の岩手県釜石市にあります。釜石市では昔、鉄の生産が盛んにおこなわれていました。橋野町には、現在残っているものでは最も古い、鉄の洋式高炉があります。



人口は568人で、面積は10749haあります。面積の約80%が森林で、約13%が牧場、約5%が原野や川の緑豊かなところです。

橋野小学校は全校で8名の小学校です。今年創立131年目で歴史のある学校です。みんな仲良しで、人数は少ないのですが、1人1人がとても頑張っています。



私たちは、今まで植樹など、森林を守るための活動に力を入れてきました。植樹・下草刈りは昭和33年から始まりました。場所は橋野町にある和山という所で車で20分位の所にあります。



植樹は、学校行事のほかに、緑化推進運動でも行いました。岩手県内から、環境を守るために取り組んでいる小学校が4校集まって、和山でミズナラとコナラを600本植えました。海岸でクロマツを植えたこともあります。森林を守るための活動が岩手県内に広がっていることが分かり、うれしく思いました。

植樹した木が成長すると、山が水を蓄えることができ、川に栄養のある水が流れ海に届きます。また、鳥や虫たちの住みかにもなり、生き物が住みやすい環境を作ることができます。現在では、生き物の住み家になりやすいミズナラを植えています。1年生の時に1人1人が自分の木を植えて、成長の記録も観察します。今まで植えた本数は約26000本になります。また、去年までは下草刈りをしていました。下草刈りとは、木が成長しやすいように、根元に生えている雑草などを刈り取る作業です。植樹が終わると総会を行います。森林愛護少年団の新しい決まりを作ったり、活動について話し合う会です。全ての活動が終わると、みんなでお弁当を食べます。お母さん方に作っていただいた肉汁もいただきます。一生懸命働いた後の食事はとてもおいしいし、みんなで食べると楽しい気分にもなります。



森をきれいにし、地域の環境を良くするためにクリーン作戦も取り組んでいます。クリーン作戦では、小学校周辺の道路のゴミ拾いをしました。年々ゴミが減り続けています。ぼくたちの活動を見て、ゴミを捨てる人が少なくなっているのだと思うとうれしいです。



毎年4月には緑の募金も行っています。今年は釜石市内のホームセンターで行いました。たくさんの方に募金していただきました。集まったお金は10491円でした。ぼくたちの集めたお金が、自然のために役立つのだと思うとやりがいを感じます。



次に、箱崎小学校との交流について紹介します。箱崎小学校は昨年度をもって統合のため閉校となりましたが、これまで海岸清掃など、海を守る活動に取り組んでいました。箱崎小学校と橋野小学校は、鶴住居川という川を通してつながっています。橋野の森林から流れる水が、鶴住居川を流れ、箱崎に送られて、海の生き物をはぐくんできています。ぼくたちが森林を守り、箱崎小学校のみんなが海を守ることで、多くの生き物や環境を守ることができます。交流会では、おたがいの活動を発表しあったり、スポーツをしたりして交流しました。



私たちは、沢検川に魚を放流してきました。放流する魚はカジカやヤマメです。以前は鶴住居川でサケの放流もしたことがあります。水生生物調査も行い、川の水質も調べています。生き物が住める川にするために森林は大切な役割をしているので、これからも植樹などの活動を続けていきます。



**【成果】**

- 森林が多くなった
- ゴミが減った
- 環境に気をつけるひが増えた

**【課題】**

- 卒業すると木の世話や生長を記録出来ない
- 川を汚さない
- 人数が減ってきている

私たちは今まで26000本以上植樹して、クリーン作戦では、昔はトラック2台分のゴミがありました、今年はゴミ袋2つ分でした。

ゴミが減ってきたと思います。私たちの活動で環境を守ることに気をつける人が増えたと思います。これからは植樹してきた森林から流れる水を、生活排水で汚さないようにしていくことが大事だと思います。これからも頑張りながら、卒業した人たちの木もお世話したり、成長を記録していきたいと思っています。



# 秋田県湯沢市立 秋ノ宮小学校

発表者：佐藤はるな、菅めぐみ  
先生：柴田正勝



未来へつなげよう杉の子隊活動！  
私たちの住んでいる秋ノ宮は、緑・水・風すべてが私たちに優しく語りかけてくれるような所です。  
私たち秋小杉の子隊は、豊かな自然の中で森林活動をはじめ様々な活動を行っています。



秋の森林教室

秋の森林教室では、ブナ林を訪れ、森の案内人さんに樹木や川、様々な植物について説明していただきました。足元に広がるフカフカした地面は落ち葉が積み重なってできたものです。葉が雨を集め、太い幹を伝わり、地面が雨水を蓄えるのだそうです。



ダケカンバ

サルナシ

サルナシはキューイフルーツの原種です。実は小さいけれど割ると黄緑色で味はキューイそのものでした。ダケカンバはお盆のときに迎え火として皮を剥いて燃やすそうです。ダケカンバはツルがからまってしまうとそこだけ育たなくなってしまうそうです。



除伐体験

除伐体験もしました。せっかく育った木を伐ってしまうのは可愛そうな気がしましたが、除伐しないと弱々しく育ってしまうそうです。いっぱい太陽の恵を受けて大きく育ててほしいと思いました。



2年前



現在

私たちは2年前、秋の森林教室でブナの実を拾ってきて育てたところ今ではこのくらいまでに大きくなりました。今年の秋の森林教室では、この小さなブナを森に返し緑を増やしていきたいと考えています。



杉子橋

川に沿って山道を歩くと、いくつか橋があります。ときめき橋、夢と希望の橋、大岩橋、杉の子橋、これは私たちの先輩が命名したのだそうです。そして昨年秋に新たに「そよ風橋」が加わりました。



ヤマメ放流



私たち杉の子隊は森林活動の他にも様々な活動を行っています。2・3年生はヤマメの稚魚を近くの役内川に放流してきました。昨年、男鹿市漁業協同組合さんからヤマメの卵をいただき育て、観察したのです。これからも、ヤマメは住める綺麗な役内川にしていきたいです。



## クリーンアップ

ゴミのない綺麗な秋ノ宮にしようと全校でクリーンアップも行っています。毎年活動してきたのでゴミが年々減ってきているように思います。これからもゴミのない綺麗な秋ノ宮にしていきたいです。



## プランター栽培



学校の周りを花一杯にしようとプランターで花を育てています。これらは1年生から6年生までの縦割りグループで活動しています。



## ナメコ・シイタケ植菌



次にナメコ、シイタケの植菌です。ホダ木にドリルで穴を開ける作業から行いました。収穫したナメコは缶詰にもしています。

## 愛光園との交流



学校の近くにある福祉施設「愛光園」へ行って交流もしています。歌を歌ったり車椅子を押ししたりプランターの花やナメコの缶詰などもプレゼントしています。

## 祖父母交流会



祖父母交流会でも歌を歌ったりクイズを出したりしました。自分たちで収穫したナメコや学級菜園での作物を使ったナメコ汁やトン汁も楽しみの一つです。



秋田県植樹祭が田沢湖町で行われ6年生が参加してきました。秋田県学校関係緑化コンクールで県知事賞をいただきました。更に北海道で行われた全国植樹祭でも全日本学校緑化コンクールで準特選をいただきました。これからも、この豊かな自然を大切にしていきたいと思っています。





親子森林教室では今年も親子で学校林「喜びの山」に登りました。1年生による杉苗の植樹では6人の1年生が「丈夫に大きく育てね」とお父さんお母さん方と一緒に植えました。



2年生以上は下刈りや雪起こしでカマを使って杉の木が大きく育つように周りの草を刈っていきます。また雪によって倒れかけた杉を起こします。



枝打ち体験や杉の木の成長の様子を調べました。枝打ちは1年生もノコギリを使って挑戦しました。幹の太さを測ると24cmでした。ちょうど幹に手を回したくらい太さでした。年輪も数えました。一つ一つゆっくりと数えると46、つまり46年かけてここまで育ったということです。

私たちは森林教室を題材に詩や作文を書き文集にしています。喜びの山での思い出をずっと大切にしようとして紙芝居を使って紹介しました。私たち秋小杉の子隊は自然の恵みを身体全体で感じるとともに、人とふれあうことの大切さを学んでいます。



私たちの山木屋小学校は福島県東部にある阿武隈高地の北部、標高約560mの地点にあります。校庭からは富士山をのぞむ事が出来る最北端の山としても知られる華山や葉山などもまじかに見ることができる自然豊かなところです。



「育てよう森と緑」を合言葉に花を育てる運動や緑の募金活動、体験農園での栽培活動、登山による自然体験活動、川に関する自然体験活動、学校林での活動などを行ってきました。



私たちの学校には「第一親子の森」「第二親子の森」「学びの森」の3つの学校林があります。「第一親子の森」は、昭和53年から杉の植樹を行ってきた森で、お父さんお母さんが子供のころに育てた森です。「第二親子の森」は平成元年にケヤキ140本を植樹したところから始まり、現在も植樹や下草刈りをして、私たちの森林体験活動の場として活用している森です。



平成2年には杉100本、平成4年には杉600本、平成5年には杉500本と杉の植樹が多かった森ですが、平成17年からは広葉樹の森を作ろうと3年間で約200本のケヤキの植樹を行っています。また県北農林事務所の方のご指導の下、伐根作業を体験し、木の根が大地を抱え込む力の大きさを感じ取ったり、森の土、校庭の土、畑の土による水の浸透の実験を行って、森林の持つ保水力や浄化作用について理解を深めたりして、なぜ森林を育てていくことが大切なのか、体験的に学んでいます。



「学びの森」は、私たちの学校のすぐそばにあるとても身近な森です。近くにあるため低学年は生活で森を体験したり、3年生以上は理科や総合的な学習の時間で自然観察を行ったりと、様々な形で活用しています。昨年は緑の少年団交流会でいただいたキノコの苗床を育て、採れたキノコをキノコ汁にしました。シイタケやナメコなどを植菌しているホダ木などもありますが、3年前に植菌したもので今年は3年生が植菌体験をしてキノコ栽培を継続していきたいと考えています。また、2年生は「学びの森」に基地を作ったり、1年生は図工の作品を展示する発表の場として活用しています。

親子の森という名の通り森林体験活動の時は地域や保護者の方に広く参加を呼びかけ、育成会の方の協力を得ながら地域ぐるみの活動に広がるように取り組んでいます。今後はお父さんお母さんが育てた森「第一親子の森」の方でも除伐作業など親子で活動できればと考えています。



2年生が「冬と生き物と友達になろう」という学習をしました。鳥について日本野鳥の会の方にお話をし、「学びの森」で観察会を行ったのです。木をつついた鳥の跡などに鳥が生息していた痕跡を見つけたり、実際にシジュウカラを観察したり、鳥に関心を持つ良い企画となりました。この様子はテレビ局が取材に訪れ全国に放映されました。



「学びの森」を楽しむためのグリーンクラブというクラブ活動では、「学びの森」の達人を目指し植生図を作成したり、山菜やキノコ、木の実などの山の恵を味わったりして森の持つ魅力をあじわっています。外部講師として森の案内人の方や地域の自然愛護会の方を招いて専門的な知識を学び、森のプランコで遊んだり、ハンモックを作ったり、迷路を楽しんだり、クラブの児童からの情報が校内に広まり「学びの森」への関心が高まっています。2年前に5年生が「学びの森」を整備し、町内の小学校の5年生を招待し、「学びの森」の案内人となって森の中の様子や植物、森の働きについて紹介しました。

このように学校林での活動は幅広く様々なものがあります。それらの活動をとおして私たちは森に親しみ森の良さを感じてきました。まだまだ山木屋には素晴らしい自然がたくさん残っています。これからはずっと自然豊かな山木屋であってほしいと思います。

私たちが大人になったときも今の豊かな自然を残していけるよう取り組んでいきたいと思っています。

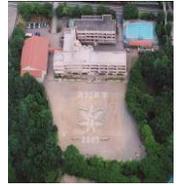
# 神奈川県相模原市立 広陵小学校

発表者：永吉茜、中村萌、中村琴音、宇美涼花  
先生：内藤幹雄



広陵小学校は神奈川県の北部にあり、高尾山がある東京都八王子市のすぐ近くにあります。周りを自然に囲まれた住宅地の真ん中にあります。

学校の両側に林があり、左に自然観察林があります。広陵小学校は今年で30周年を迎えます。自然観察林は広陵小学校が出来たときからあったのですが、だんだん使われなくなってしまい、子供たちの立ち入りが禁止になっていました。でも、昨年から整備をして、また使おうということになりました。



1月21日に自然観察林の整備をするので参加してくれるように呼びかけました。



子供も大人もたくさんの方が協力してくれました。写真は第1回の整備をして綺麗になった自然観察林と第2回目の整備の様子です。



柵を立てたり道を作ったりする他に工作をしたりトン汁を食べたりして楽しみました。



写真は第2回目の整備が終わった後の自然観察林です。道が出来ました。



この写真は綺麗になった観察林で3年生が遊んでいる様子です。

県の森林課の方に来ていただいて5年生が森林学習をしました。実際に観察林へ行き、木の種類などを教えてもらいました。



業者の方が安全のために柵を立てたり枯れた木を伐ってくれたりもしました。この写真が作っていた柵がついた道です。ここから斜面をジグザグに登って頂上まで行く道を作ってくれました。



今年からは今までは校内でやっていた6月大集会というイベントをせっかくなので観察林でやろうということになりました。この写真は5年生が観察林を下見しているときの写真です。

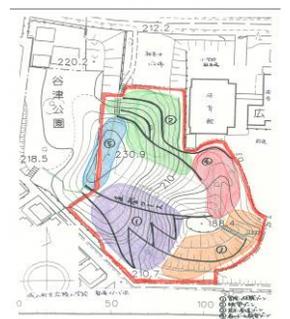


これは6月に行った第3回の保全活動のときの写真です。たくさんの方が手伝ってくれました。



これは6月大集会当日の写真です。1・6年生で行いました。ビンゴや宝探しなどをしました。これは5年生と2年生でスタンプラリーをした様子です。この写真はこれからの自然観察林の計画図です。花や木を植えたり遊べるところなども作る予定です。

自然観察林の整備と6月大集会では、大人たちが石を運んでくれて手伝ってくれました。子供たちも手伝ってササを刈ったりもしました。1・2年生が作った看板を立ててくれました。これは6月大集会の様子です。1・6年生が自然観察林へ入っていきます。1・6年生は同じもの探しと宝物探しをしました。1年生が崖を登ってちょっと危なかったです。これは3・4年生の活動です。雨が降っていたけど歩きました。さっき話した業者の人たちが作ってくれたジグザグの道を利用して登っています。これは4年生と2年生がスタンプラリーをしているところです。この6月大集会では自然観察林でたくさん遊ぶことが出来ました。これからは自然観察林の中でミニコンサートを開いたり自由に観察林の中に入って遊べるようにしたいです。



# 愛知県新城市立 菅守小学校

発表者: 加藤あかね、垣内いよな  
先生: 安藤昭彦



- ◇愛知県新城市の北のすみ
- ◇自然がたくさん
- ◇全校児童20人(6年・6人)



## 学校林

7年前

(平成13年度)

2へくたーん

わくわくたんけん山

炭焼きがま

炭焼き体験

7年前、学校の裏山のおよそ2ヘクタールを学校林として整備され、「わくわくたんけん山」と名付けられ、5年前に炭焼きがまも復元され炭焼き体験もしています。



キノコの学習は、7月と10月に1回、9月に2回の合計4回のキノコ観察会を開きました。採集したキノコを教室で観察したり、10月にはキノコの専門家をお迎えして行いました。一昨年作ったキノコのWEB図鑑に付け加えをしたり、キノコの発生地点を地図に表しました。また、キノコの働きや増え方などを図鑑やインターネットで調べる学習もしました。場所や空気の湿り具合と温度がキノコの発生に関係あることが分かりました。そのほか猛毒をもつキノコが数種類あること、くさいにおいがするキノコ、死んだ虫から生えるキノコ、さわると色が変わるキノコ、名前がまだないキノコがたくさんあることなどキノコのふしぎさに多くの驚きを感じました。また、環境によってもキノコがちがうことがわかり、学校林についても調べたり考えたりすることが必要だと思いました。



5年生の社会科の「森林資源の活用」の学習でも学校林を使って勉強しました。山にはいろいろな働きがあること。人間のことだけ考えている山が荒れてしまうことがわかりました。



## ササユリ ムヨウラン

学校林には、ヒノキやマツ、コナラなど40種類以上の木々が生えており、野鳥が多く見られ、三百種類以上のキノコやムヨウラン、シヤクジョウソウ、ササユリなどの貴重な植物も見られます。



12月に巣箱を取り外し中を観察しました。卵が残っていたり、羽毛や木の皮で作った巣が入っていたりして巣箱を利用したあとがたくさん残っていました。この観察から、巣をどのように利用するのか、巣箱を利用した鳥はどんな一年を過ごすのかをグループに分かれて、図鑑やインターネットで調べました。野鳥によって巣は異なり、巣箱を利用する野鳥は決まっていることがわかりました。新たに巣箱を作り、野鳥が利用しそうな場所に巣箱をかけました。4月には巣箱を工夫して作り、巣箱コンクールにも出品しました。



炭焼きは、一度に約100kgの炭ができます。材料は学校林で伐った木や地域からいただいた木です。竹炭やお花炭などの炭も焼いたり木酢液もとっています。昨年度は、4月に炭焼き体験をした後、炭焼きで不思議に思ったことを調べ話し合いました。炭はにおいを消す働きがあると知り、学校のトイレに炭をおきました。3・4年生は初めて炭焼き体験する時に炭焼きの仕方を教えることもしています。パワーポイントを使って炭焼きのやり方の資料を見せて説明し、炭焼きを教えてあげました。



山を守っていくための方法として間伐を教えてもらい、実際にやってみました。どの木を伐ったらよいか考えて、伐り方を教えてもらい、一人一本ずつ伐ってみました。

とても大変だし危険であることがわかり、山を守っていくことは大変なことだと感じました。3月には広葉樹(もみじ、はなのき)の植樹をしたり、全校でシイタケ、ナメコ、ヒラタケの菌をうちました。どうなっていくのか楽しみにしています。

これからも山の恵み(山菜や木の実調べや料理)についての学習も進め、野鳥、キノコ、山菜・木の実についての調査・観察活動を続けていきたいと思っています。



昨年は5・6年生で野鳥、キノコ、炭焼きの学習を総合の時間に行いました。5月に専門家の方をお迎えして観察会を開きました。そして3つの課題を見つけ、グループに分かれて野鳥観察をしたり、本やインターネットを使って調べる学習をしました。



課題の1つ目は、学校林にどんな鳥がいるかについて2週間観察をして8種類の野鳥が見つかりました。2つ目は、野鳥の飛び方について、羽ばたきと羽ばたきの一旦停止を繰り返しながら飛び、浮き沈みながら飛ぶなど、野鳥の種類や飛ぶ目的によって様々な飛び方をすることが分かりました。3つ目は、野鳥の巣について、いくつか野鳥の巣を見つけ、図鑑で調べると、ヒヨドリの巣でした。これらの結果を整理し発表会をしました。野鳥の巣や子育てについての疑問が多く出されました。

炭焼きは、一度に約100kgの炭ができます。材料は学校林で伐った木や地域からいただいた木です。竹炭やお花炭などの炭も焼いたり木酢液もとっています。昨年度は、4月に炭焼き体験をした後、炭焼きで不思議に思ったことを調べ話し合いました。炭はにおいを消す働きがあると知り、学校のトイレに炭をおきました。3・4年生は初めて炭焼き体験する時に炭焼きの仕方を教えることもしています。パワーポイントを使って炭焼きのやり方の資料を見せて説明し、炭焼きを教えてあげました。



# 長野県富士見町立 境小学校

発表者：飯田遼、小林大希  
先生：細川賢

私たちは長野県富士見町立境小学校からきました。境小学校は八ヶ岳の麓、富士見町にあり、遠くに富士山や甲斐駒ヶ岳を望む豊かな自然の中にある全校児童110名の学校です。校庭の続きに約2haの学校林があり、グリーン境公園(グリさか)と呼んで大事にしています。



秋の「グリさか」では、20分も「グリさか」の中を歩くと、大きなジコボウがたくさんとれます。春には、タケノコ取りも出来ます。採れたタケノコがタケノコご飯になって給食に出てきます。みんな楽しみにしているメニューです。今年1年生は、学校林の竹を切って七夕祭りした後、親子レクリエーションで、太い竹の節を抜いて、流しそうめん会を楽しんだそうです。間伐をした竹を使って竹の工作を楽しむこともあります。

境小学校には 毎週水曜日の3時から「自然に親しむ時間」というのがあります。全校で校庭や学校林、学校の裏山などに出て、思い思いに境の自然と遊ぶ時間になっています。春の「グリさか」では、3年生が枝おろしや間伐をした枝を使って基地作りをして遊んでいます。男子は長い枝を剣にして戦いごっこをします。



冬の学校の裏山です。ソリをして楽しんでいる私たちのクラスです。学校のすぐ近くに学校林や、地域の山があるので、いつでも遊べるのが自慢です。



4年生の時は「グリさか」のベンチやシカの置物を修理しました。



これはトーテムポールを作っているところです。「グリさか」の守り神として、みんなでつくろうときめて取り組みました。



お父さん方に協力してもらって「グリさか」の入り口に立てました。



これは親子レクリエーションで、お父さんやお母さんとマレットゴルフを楽しんでいるところです。



今年私たちは「グリさか」に、新たに、ゆっくり休憩したり、リラックスできるスペースを造ろうと計画しています。

私たちの「グリさか」を、これからも大切にしていきたいと思えます。



去年の秋は、私たちばかりでなく、地域の方にも「グリさか」を楽しんでもらおうと、マレットゴルフのコース作りに取り組みました。地域の高齢者クラブの皆さんにも協力していただき、設計図を書き「グリさか」の良さをいかながら、手作りのコースを造りました。落ち葉を片づけたり、砂を運んだり、苦労しましたが、とても良いコースが出来ました。